

巻頭言

「子供たちが主役の授業」をめざして

釧路市教育委員会 教育指導参事 本川 敬一

新型コロナウイルス感染症が2類から5類へと移行して、様々なことが変わりました。すでに実施されているマスクの着用が個人の判断に委ねられていることに変わりはありませんが、新型コロナ患者や濃厚接触者に対して、感染症法に基づく外出自粛は求められなくなります。しかし、感染者数が減ったとはいえ、コロナウイルスが絶滅したわけではなく、諸手を挙げて大喜びの絶対安心とはいかないような気がします。

令和5年度がスタートして早2ヶ月が経ちました。勤務校が変わった方、担当の学年・学級が変わった方、立場が変わった方・・・自分を取り巻く環境は様々でしょうが、いずれにしても多くの先生方が意を新たにして新年度のスタートに当たっていることと思います。そういう私も3月末で幣舞中学校を最後に定年退職し、4月からは現職を拝命するという大きな転機を迎えました。学校現場とは、より一層連携を深めてまいりたいと思いますので、改めましてよろしくお願ひいたします。

さて、釧路市では第3期の教育推進基本計画（2023～2027年度）がスタートしました。現状を踏まえて今後5年間の計画が盛り込まれていますが、改めて自校の現状と照らし合わせながら、釧路市がめざすべき方向性を確認していただき、日々の指導に活かしていただきたいと思います。

今、すべての学校で授業改善が求められています。最終的な目標は児童生徒の学力向上であり、そのための授業改善です。その前提条件として子供たちが「授業が楽しい」「座って一方的に先生の説明を聞いているだけではなく、自分の意見を言う、友達と意見交換をする場面が欲しい」といったような「子供たちが主役となる授業」の創造をめざしています。

時代は変わっています。かつてのように教師がチョーク1本で授業に臨み、知っている知識を一方的に説明して、授業を受ける側は先生の説明を聞きながらひたすら板書をノートに書き写す。そして子供たちはその知識を蓄積し、暗記していく。ややもすれば、その知識量が学力と捉えかねない風潮もありました。当時は一般的だったかもしれないこのような授業スタイルですが、予測困難で多様性に溢れかえっているこれからの世の中を生き抜くためには、それに対応する求められる学力のあり方も変わってきています。身に付けた知識で生きていくのではなく、それをいかに活用していくのが求められます。

このような中、昨年度、釧路市教育委員会が『「あい」あふれる授業』を提唱しました。ここでいう「あい」は「話し合い」「教え合い」「認め合い」「学び合い」「私（I）は～」・・・色々な「〇〇あい」が溢れる授業であり、その根底には教師の子供に対する「愛」が必要不可欠です。そんな『「あい」あふれる授業』を日々の授業で意識し、実践していけば、必然的に「子供たちが主役の授業」に変わっていくと信じて期待しています。

■「釧路教育」第314号 contents■

- | | |
|-----------------|------------------------------|
| 1 巻頭言 | 教育指導参事(釧路教育研究センター所長)の巻頭言です。 |
| 2 研究グループの紹介 | 釧路教育研究センター研究グループ 今年度の活動紹介です。 |
| 3 釧路教育研究センター機構図 | 令和5年度釧路教育研究センターの運営体制の紹介です。 |

研究グループ 今年度の活動

釧路教育研究センターでは、北海道及び釧路市における教育目標と教育推進の具現のため、3つの研究グループを設置し、実践的な研究・調査を進めています。今回は各研究グループの活動について紹介いたします。

学習指導・開発研究グループ



学習指導・開発研究グループでは、「釧路市内各校における学習指導上の課題を踏まえ、授業時に活用できる教材や指導資料の作成を推進し、その活用実践例を蓄積することで、釧路市における学習指導の工夫・改善を図り、その成果を発信すること」を目的とし、『1人1台端末の活用による情報活用能力の育成』をテーマに、2ヵ年計画で研究を進めております。

今年度は、昨年度作成した「情報活用能力体系表（釧路市版第1版）」をもとに授業実践・研修を重ね、情報活用能力の育成を目指した授業を公開できるよう取り組んでおります。また、研究グループメンバーがそれぞれの校種、学年で授業実践を重ねることを通して、情報活用能力体系表の妥当性等について、さらに検討し、修正をしていきたいと考えております。さらに、資質・能力の3つの柱をバランスよく育成するため、各教科等の特質や学習過程を踏まえた端末の効果的な活用の仕方について、小・中学校における実践例を随時、釧路市授業交流クラスルーム等を活用して発信していきます。本研究グループの研究成果を、先生方の日々の実践にお役立て頂けるよう取り組んで参りますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

本研究グループの研究成果を、先生方の日々の実践にお役立て頂けるよう取り組んで参りますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。



釧路市授業交流クラスルーム（クラスコード：45winxv）↑

学習指導・開発研究グループ委員 中村 萌子(中央小学校)

担当講座	期 日	会場
1人1台端末を活用した情報活用能力の育成（数学科）	未 定	鳥取西中学校



情報活用能力体系表（一部抜粋）【釧路市版 第1版】 釧路市HPにPDF版を掲載しております↑

要素	資質・能力	分類		小学校低学年		小学校中学年	
		学習内容	小項目				
問題解決・探究における情報活用	知1 知2 知3 知識及び技能	情報を活用した問題の発見・解決等の方法	見直し・計画	情報活用の見直しをもつことができる。	目的を意識して、情報活用の見直しを立てることができる。		
			情報収集のしかた	身近なところから情報を収集することができる。	調査や資料等から情報を収集することができる。		
			整理のしかた	絵や図、簡単な表等を用いて情報を整理することができる。	「考えるための技法」、表やグラフ等を用いて情報を整理することができる。		
	思1 思2 思3 思4 思5 思6 思考力・判断力・表現力等	情報を活用する力	取捨選択	課題解決に役立つ情報を選ぶことができる。	根拠を明確にして、課題解決に役立つ情報を選ぶことができる。		
			情報の読み取り	一つの資料から視点を持って情報を読み取ることができる。	複数の資料から傾向や変化を読み取ることができる。		
			情報を客観的に捉え、整理、分析、判断する力（批判的思考）	事実や根拠に基づき、分析・判断することができる。	複数の事実や根拠に基づき、適切に分析・判断することができる。		
			情報を結びつけて新たな意味を見いだす力（創造的思考）	情報から分かったことをまとめることができる。	情報を比較したり、関連付けたりして新たな意味を見いだすことができる。		
			表現・発信	相手を意識して表現し、情報の発信・発信をすることができる。	相手や目的を意識して表現し、適切に情報の発信・発信をすることができる。		
			情報活用の評価・改善	情報活用を振り返り、よさを確かめることができる。	情報活用を振り返り、改善点を見いだすことができる。		
	学1 学2 学3 学4 学びに向かう力・人間性等	情報活用の態度	多角的に情報を検討しようとする態度	事実と関係する情報を見つけようとする。	情報同士のつながりを見つけようとする。		
情報を複数の視点から捉えようとする。				新たな視点を受け入れて検討しようとする。			
問題解決における情報の大切さを意識して行動しようとする。				目的に応じて情報活用の見直しを立てようとする。			
情報活用を振り返り、よさを認めようとする。				情報活用を振り返り、改善点を見いだそうとする。			

子ども支援研究グループ



子ども支援研究グループでは、「釧路市内各校における子ども支援に関する課題を踏まえ、いじめ、不登校への対応、個に応じた指導の進め方等について、調査、研究し、釧路市における子ども支援の在り方について、実践を蓄積しその成果を発表すること」を目的とし、「不登校の児童生徒への対応」をテーマに、2ヵ年計画で研究を進めております。

昨年度、市内各小・中学校における不登校の実態を交流する中で、各校が児童生徒の実態に即し、問題解決に向けて様々な取組の工夫をしていることがわかりました。一方で、特に若手教員が解決に向けた見通しや具体策をもてずに苦悩しているという実態も明らかになりました。そこで、若手教員の視点から、先生方が日常的に取り組むことができる不登校児童生徒へのアプローチの仕方について実践例を交えながら整理し、研究を進めてきました。

今年度は昨年度の研究内容を更に整理していくとともに、不登校状態にある児童生徒への対応モデルや、校内支援体制の構築について研究を進めていく予定です。今後とも、本研究グループの活動に際し、ご理解、ご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

子ども支援研究グループ委員 柴田 浩子（東雲小学校）

郷土読本・地域学習研究グループ



郷土読本・地域学習研究グループでは、「郷土読本を効果的に活用したふるさと教育の在り方について研究するとともに、関係機関と連携しながら、郷土読本『くしろ』の内容の検討を行うこと」を目的とし、研究を進めております。

「ふるさと教育の推進」では、ふるさと教育の意義や目的を改めて確認するとともに、これまで市内の各校で実践されてきた地域教材を生かした学びを、「ふるさと教育」という視点で見直し、整理していくことを中心に取り組んで参ります。

また、次年度の小学校社会科の教科書改訂を踏まえて、各単元の内容を精査したり、資料を最新のものに更新したりするなど、よりよい郷土読本の作成を目指し、作業にあたって参ります。さらに、昨年度同様、ロイロノート・スクール内のデジタルデータについても、随時見直しを図り、先生方にとって授業で活用しやすいものとなるよう、整備を進めていきます。

今年度は、グループのメンバーが大きく入れ替わり、新たな気持ちでのスタートとなります。昨年度までの研究を引き継ぎ、ふるさと教育の推進役として、よりよい郷土読本『くしろ』の作成に向けてグループ委員一同尽力して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

郷土読本・地域学習研究グループ委員 鶉橋 大志（興津小学校）

研究センター 機構図

